

### 第3章 光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査

#### 第1節 試掘調査

##### 1 調査の経過

光構内は山口県光市大字室積浦に所在し、同構内およびその付近は「御手洗遺跡」として周知されている。構内に遺跡が埋存していることが明白になったのは、昭和40年、附属中学校の体育館の建築工事中のことである。遺物が発見されたのは工事による掘削の最終段階で、遺構は検出されなかったが、遺物包含層から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器など各時期の遺物が多量に出土した。その後、光構内では散発的に小規模な立会調査が行われているにすぎず、御手洗遺跡の性格・規模・時期など不明な点が多い。

今回の調査は、小学校体育館の北東に位置する小学校の運動場改修に伴い、工事範囲内の埋蔵文化財の有無、分布範囲を把握することが目的であった。調査の主な対象地域は、

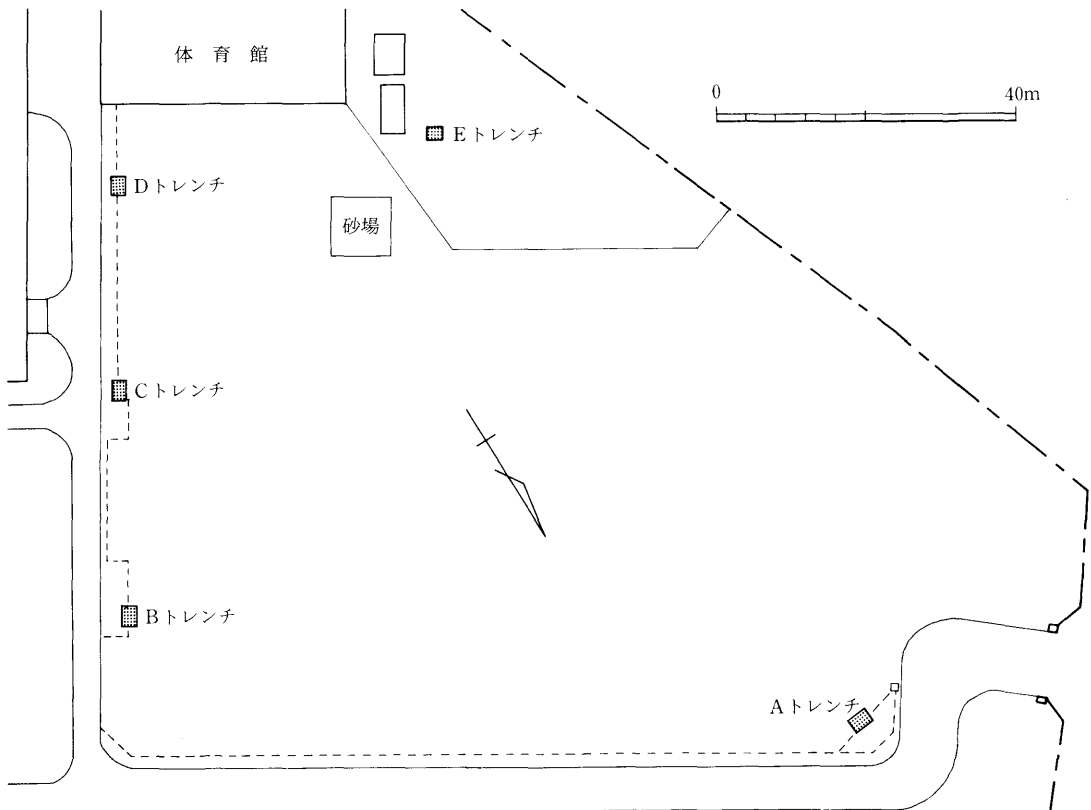


Fig. 27 調査区位置図(1)

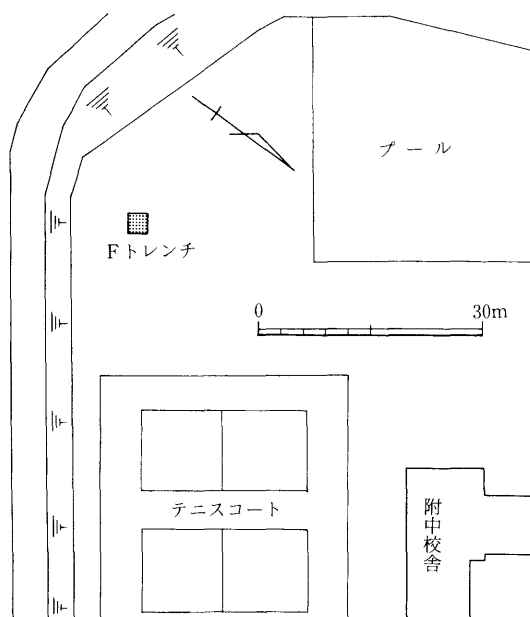


Fig. 28 調査区位置図（2）

運動場の東縁をめぐる側溝部分と北縁の排水  
管の埋設地域である。

試掘調査は、1.5m×2.5mのトレンチを運  
動場の北端部に1ヶ所（Aトレンチ）、東縁  
に3ヶ所（B・C・Dトレンチ）、南端部に  
1ヶ所（Eトレンチ）の計5ヶ所設定して  
行った。また、これと並行して光構内の南  
端部にも将来の新営計画に先だって2m×  
2mのトレンチを1ヶ所（Fトレンチ）設定  
して試掘調査を実施した。調査期間は平成  
2年7月5日から7月19日までで、調査面  
積は約23m<sup>2</sup>である。

## 2 層位 (Fig. 29, PL. 21 (3) (4)・22) Aトレンチ

運動場の北端部に設定したトレンチ。現地表面から約40～70cmまでは運動場および構内の造成に伴う表土。その下には上位から、最大層厚約15cmの木炭を含む第2層：黒褐色細砂、最大層厚約25cmの第3層：褐色礫混じり細砂、第4層：褐色粗砂混じり礫が順次堆積する。第2層の検出面の標高は約3.30mで、トレンチ東半部に堆積するが、第3層と同じく構内の造成によって西半部が削平されたと考えられる。第2層にも円礫を若干含むが、下層になるにしたがって礫径を増す。

遺物は他のトレンチに比べて多く、表土を除く各層から出土した。しかし、第4層は含量が少なく、また、検出面から最大で約90cm掘削した段階では出土遺物が皆無であったため、それ以下の掘削は断念した。遺物の組成は、第2層が土師器、須恵器、瓦質土器、土錘など42点、第3層が土師器60点、第4層が土師器14点で、小片が大半を占める。

## Bトレンチ

運動場の東縁北端部に設定した。現地表面から約70cmまでは運動場および構内の造成に伴う表土。その下には第2層：オリーブ褐色細砂、第3層：暗褐色粗砂がブロック状に堆積する。第4層：黒褐色細砂混じり礫は最大層厚約30cmで、トレンチ南端部に部分的に存在する。検出面の標高は約3.10m。第5層：暗オリーブ褐色礫混じり細砂は最大層厚約40cmで、北側にいくにしたがって層厚を増し、第6層：にぶい黄褐色粗砂、第7層：砂礫と同

## 層位

様に、北側に落ち込みながら堆積する。層厚は第6層が最大25cm、第7層が最大5cmである。第8層：黒褐色粗砂はBトレンチでは最も厚く堆積している。検出面から約55cm掘削したが、出土遺物はなかった。

遺物は第4・5・6各層から出土した。第4層と第5層の遺物は一括して取り上げており、第4・5層からは縄文土器、土師器、須恵器など36点、第6層からは土師器28点が出土した。各層とも小片が多い。

### Cトレンチ

運動場の東縁の中央部、Bトレンチの南西約28mに設定したトレンチ。運動場および構内の造成に伴う表土は薄く、現地表面から約35cm下位までである。トレンチの北西隅には前身の山口師範学校の校舎に伴う基礎が残存する。その下には木炭を若干含む最大層厚約30cmの第2層：暗褐色砂質土、最大層厚約20cmの第3層：黄褐色礫混じり砂質土が堆積する。第2層の検出面の標高は約3.50m。遺物は第2層、第3層に包含される。第4層：黄褐色砂混じり礫以下は無遺物層で、第5・6層：砂礫、第7層：灰白色砂と堆積する。

遺物は他のトレンチに比べて極めて少なく、第2層から縄文土器、土師器など6点、第3層から土師器4点が出土した。両層とも小片が多い。

### Dトレンチ

運動場の東縁の南端部、Cトレンチの南西約25mに設定したトレンチ。現地表面から約35cmまで運動場および構内の造成に伴う表土で、層厚はCトレンチと大差ない。その下には層厚約25～35cmの第2層：褐色砂質土が堆積する。第2層の検出面の標高は約3.35m。木炭を多量に含み、なかには径約5cmで最大長が約15cmにおよぶ炭化材も認められる。西壁中央部の断面では幅約60cm、深さ約40cmの落ち込みが観察されるが、掘削段階では掘り方はわからなかった。落ち込みの内部には木炭が多く含まれており、第3層もしくは第4層を掘り込み面とする遺構の可能性がある。第3層：明黄褐色細砂は最大層厚約25cmで南半部に堆積する。第4層：明黄褐色細砂混じり礫はトレンチ内では最も層厚があり、最大で約45cmである。以下、第5層：黄色礫混じり粗砂、第6層：浅黄橙色粗砂、第7層：淡黄色粗砂と色調の若干異なる粗砂が堆積する。

遺物は第2層から土師器10点、鋳滓1点が出土した。土師器のうち高坏は残存状態が良好で、他の遺物に比べて摩滅も少ない。

### Eトレンチ

運動場の南端中央部、Dトレンチの西約40mに設定したトレンチ。現地表面から約30～35

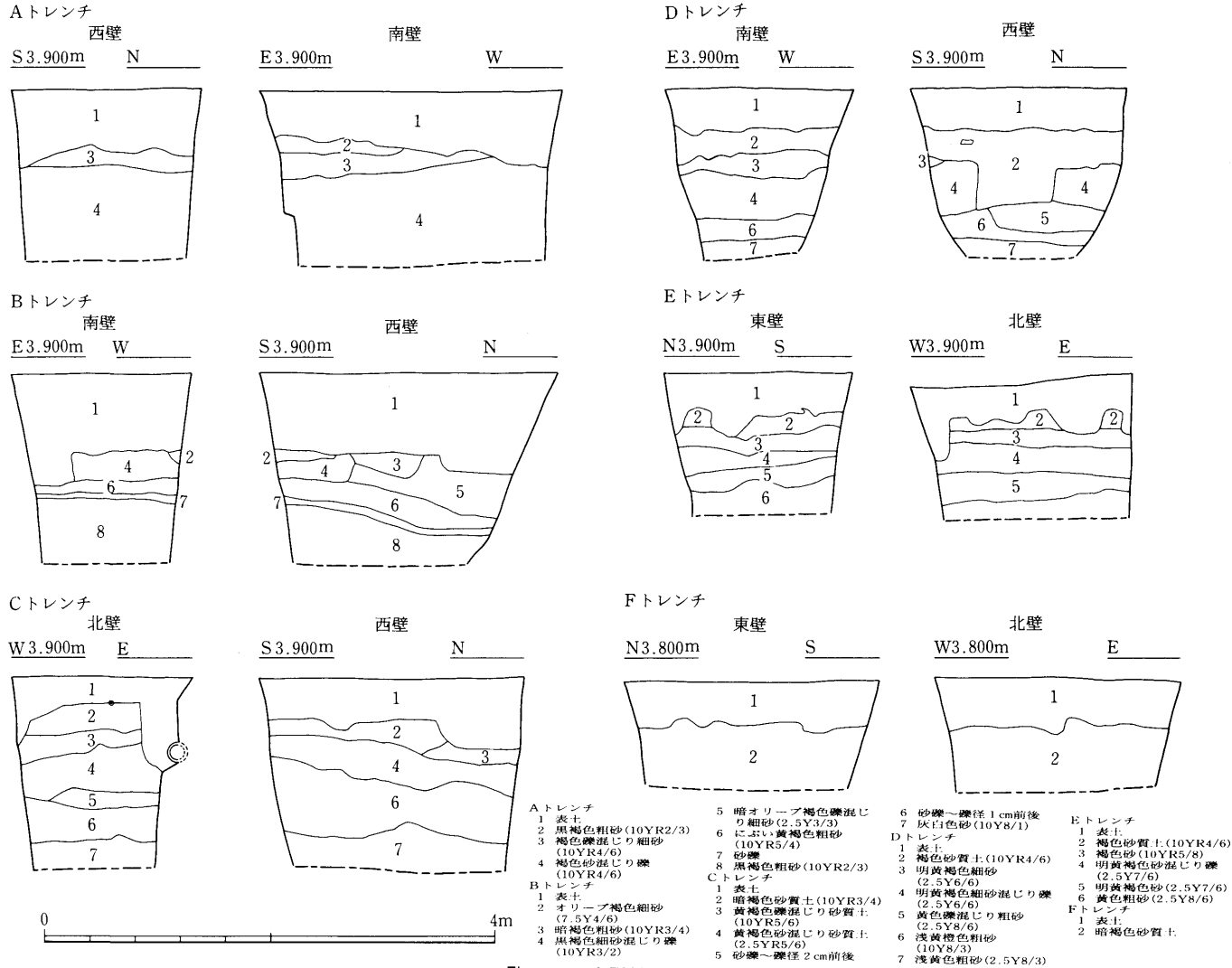


Fig. 29 土層断面図

## 出土・御手洗湾採集遺物

cmまで運動場および構内の造成に伴う表土で、随所に攪乱層が存在する。その下にはDトレンチの第2層に相当する、最大層厚約20cmの第2層：褐色砂質土が堆積するが、遺物は出土していない。第2層の検出面の標高は約3.40mである。第3層：褐色砂層は第2層と粒度で分層される。以下、第4層：明黄褐色細砂混じり礫、第5層：明黄褐色粗砂、第6層：黄色粗砂は、それぞれDトレンチの第3、4、5層に対応する堆積層である。

各堆積層からの出土遺物はない。

### F トレンチ

光構内の南端部、プールの東側に設定したトレンチ。現地表面から約40cmまで構内の造成に伴う表土で、その下には第2層：暗褐色砂質土が堆積する。礫をほとんど含まず、しまりがない。湧水が激しく検出面から約60cm掘り下げた段階で掘削を断念した。光構内の南に位置する峨嵋山からの伏流水が当地域で噴出するものと思われる。第2層の検出面の標高は約3.25mである。

遺物は第2層から土師器23点、須恵器、施釉陶器、磁器、剝片各1点が出土し、大きく時期の隔たる遺物が混在している。

## 3 出土・御手洗湾採集遺物 (Fig. 30, PL. 27・28)

### A トレンチ出土遺物 (1～5・11)

1・2は土師器。1は小形の坏で、体部が直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反するものと思われる。底部外面は丁寧な静止ナデが施される。2は埴で、しっかりした断面方形の高台を貼付する。底部外面には板目圧痕が残る。3は糸切り底の須恵器の坏。ベタ高台の底部をもち、体部は内弯して立ち上がる。4は瓦質土器の甕で、口縁部は肥厚し、やや垂れ下がりがみの玉縁となる。5は土師器の甕。頸部内面に稜をもたず、口縁部は直線的に外反する。口縁端部は内面への強い横ナデによって上方に突出ぎみになる。11は棒状土錘。断面形は楕円形で、身部に比べてやや肥大した頭部は裏面側に弯曲する。穿孔は焼成前に行われるが、下半部を欠損するため、両端に施されたかどうかわからない。1～4・11は第2層、5は第3層出土。

### B トレンチ出土遺物 (6)

粗製、有文の縄文土器。外面の地文はわからないが、ナデののち、錯綜斜行する沈線を施文する。第4・5層出土。

### C トレンチ出土遺物 (7)

粗製、有文の縄文土器で、錯綜斜行する沈線を施文する。6と同一個体の可能性がある。

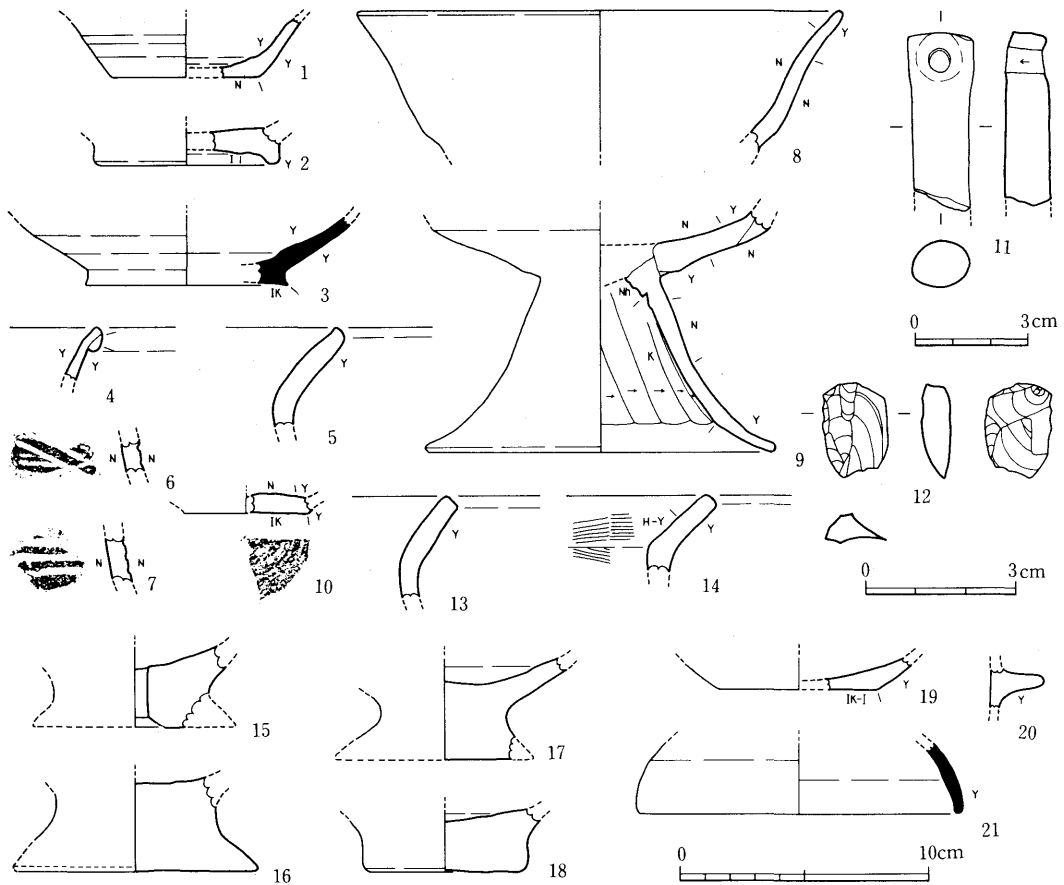


Fig. 30 出土遺物実測図

**D トレンチ出土遺物（8・9）**

同一個体の土師器の高坏。8は丹塗りの坏部。長く深い上半部で、内弯して立ち上がり、口縁部はやや外反して開く。口縁端部は丸い。9は脚部で、脚部内面を除いて丹塗りする。脚部側面に坏部を接合し、坏部の中央部を円板充填法により成形する高坏で、坏部の下半部は浅く、中位より下位で外面に稜をもち反転する。脚部は裾部までゆるやかに開き、端部付近で内面に稜をもちながら屈曲する。屈曲部は接地点よりかなり上位にあり、裾端部には平坦な面をもつ。内面は反時計回りに横方向に連続して手持ちヘラケズリする。第2層出土。

**F トレンチ出土遺物（10・12）**

10は土師器の皿。底部と体部の境は明瞭で、糸切り底。12は姫島産黒曜石製の縦長剥片。

## 小結

腹面側がネガ面で、上半部の剝離面がネガティブな剝離面である。背腹両面の剝離面の剝離方向は90°もしくは180°ずれている。

### 御手洗湾採集遺物 (13~20)

光構内の面する御手洗湾での採集品。現存する護岸用の石垣が組まれる前に構内に堆積、露出していた遺物包含層が波濤によって削られ、遺物が遊離したものである。

13~20は土師器。13・14は甕。13はしまりのない頸部をもち、口縁部は直線的に外反する。14は張りのない胴部をもつものと思われ、口縁部は直線的に「く」の字に外反する。15~18は台付皿で、底部端が大きく外方へ開くもの(15~17)と円盤状の底部をもつもの(18)とがある。いずれも糸切り底と思われ、成形が粗雑で、器面の凹凸が激しい。15は底部中央に外面から焼成前穿孔がなされる。19は糸切り底の皿。底部と体部との境はやや不明瞭で、底部外面には板目圧痕が残る。20は鍋。やや長めの鋳部は水平に貼付され、端部は丸く終わる。21はやや小形の須恵器の坏蓋。

## 4 小結

今回の調査では、運動場の南端部を除く北・東両縁の4ヶ所、および光構内の南端部1ヶ所のトレンチで遺物が出土した。Dトレンチを除く各トレンチでは、大きく時期の隔たる遺物が同一層から出土している。一括性に乏しいが、注目しておきたい資料がある。

まず、時期的に最も遡るのはB・Cトレンチで出土した、有文の鉢形土器と思われる縄文土器である。小破片のため弧状の沈線かどうかかわからないが、錯綜斜行する沈線を施文する。県内東部で、比較的まとまった縄文土器が出土しているのは熊毛郡岩田遺跡で、後~晩期の土器が一類から五類に区分されている<sup>2)</sup>。今回の調査で出土した土器は粗製であるが、文様の特徴から岩田四類に相当するもので、晩期前半に位置づけられる。御手洗湾をはさんで光構内の対岸に所在する、後期後半の横樋遺跡<sup>3)</sup>に後続する時期の資料である。

また、Aトレンチから出土したベタ高台の須恵器は、県内では極めて類例が少なく、わずかに防府市周防国府跡<sup>4)</sup>で出土例があるにすぎない。10世紀後半頃に位置づけられているが、供給地、流入経路はわかっていない。

以上のように、試掘調査の結果、小学校体育館の北西に設定したDトレンチでは、5世紀前半の丹塗りの高坏が良好な状態で出土し、遺物の出土状況も他のトレンチと異なり大きく時期の隔たる遺物を同一層に包含していないことが予想された。また、トレンチ内での第2層の落ち込みは遺構の埋積土である可能性があり、Dトレンチ周辺での遺構の有無、分布状況の把握が課題となった。

## 第2節 事前調査

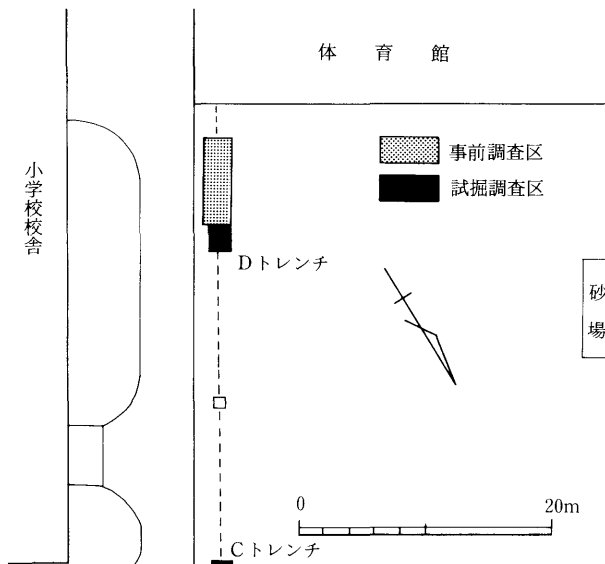
### 1 調査の経過

試掘調査の結果、小学校体育館の北西に設定したDトレンチでは、他のトレンチと色調・粒度の異なる堆積層が存在し、5世紀代前半の丹塗りの高坏が良好な状態で出土した。また、Dトレンチでは大きく時期の隔たる遺物は同一層からは出土しておらず、A～C・Eトレンチで見られる縄文時代から室町時代の遺物が、包含層から混在して出土する状況と大きく異なっていることが判明した。試掘調査の結果をうけて、埋蔵文化財資料館運営委員会は、Dトレンチ内の第2層の落ち込みは遺構の埋積土である可能性があり、遺構の有無、分布状況の把握するために、Dトレンチ周辺では運動場改修工事に先だって事前に発掘調査が必要であると結論づけた。

埋蔵文化財資料館は同運営委員会の指示を受け、試掘調査時のDトレンチと小学校体育館の間の地域、幅約2m、長さ約7.5mの工事路線について発掘調査を実施した。調査期間は平成2年11月1日から11月15日までで、調査面積は約15㎡である。

### 2 層位 (Fig. 32, PL. 23)

層位的には試掘調査時のDトレンチの層順と同じである。現地表面から約30cmまで運動場および構内の造成に伴う表土で、北端部には前身の山口師範学校の校舎に伴う基礎によって攪乱を受けている。その下には層厚約20～40cmの第2層：褐色砂質土が堆積する。木



炭を多量に含み、北に向かうにつれて次第に堆積厚を増す。出土遺物には土師器63点、須恵器3点がある。

また、中央部よりやや南では第2層を検出面とする土壌1基を検出した。その下位には、第3層：明黄褐色細砂が堆積し、南北両端部で同層を検出面とする4基の土壌を検出した。このうちの2基は切り合い関係にあり、調査区内では少なくとも三時期の遺構が存在することが明らかとなった。

Fig. 31 調査区位置図



土壌

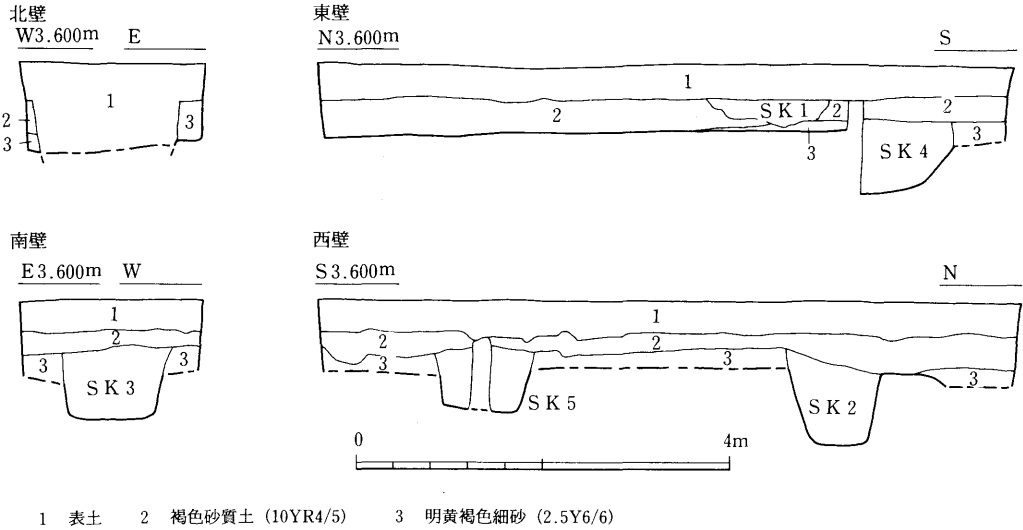


Fig. 32 土層断面図

3 遺構

第1号土壌 (Fig. 34, PL. 24)

調査区の中央部よりやや南に位置し、第2層を検出面とする。東への延長部分は調査区外にあたるため完掘していないが、平面形態は不整形な楕円形状を呈するものと思われ、長軸140cm、短軸96cm以上、検出面からの深さ19cmの規模をもつ。検出面の標高は約2.3mである。西縁部には壁面に沿って底面から約10cm上位に弧状に巡る狭い平坦面をもつ。底面の中央部からやや西には不整形な落ち込みが存在する。埋積土は木炭を若干含む暗褐色細砂 (7.5YR3/3) である。

遺物は土師器甕・器台、須恵器坏身・高坏、須恵器模倣土師器の甕など50点が出土した。大半が土師器で壙底からわずかに上位で出土し、丹塗りの土師器10点が含まれている。

第2号土壌 (Fig. 35, PL. 25 (1))

調査区の北端部に位置し、第3層を検出面とする。西への延長部分は調査区外にあたる

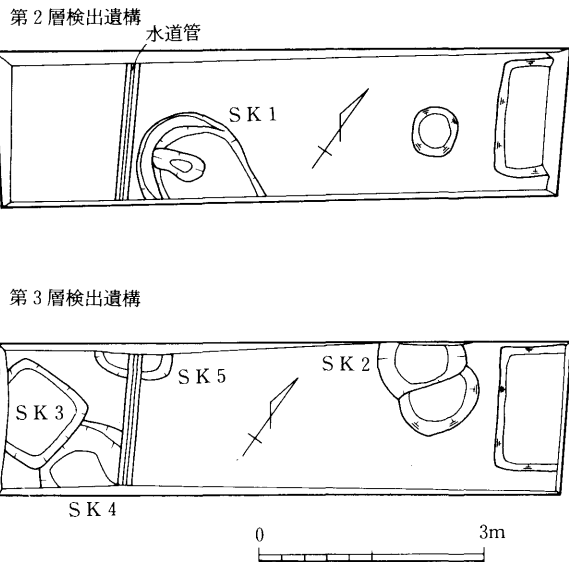


Fig. 33 遺構配置図

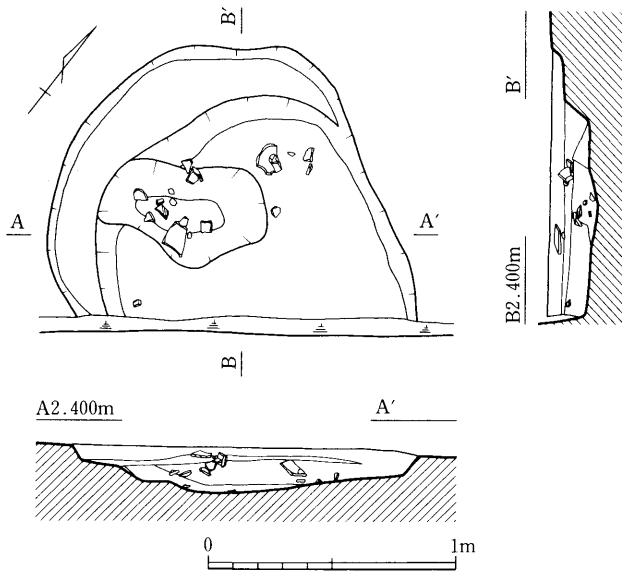


Fig. 34 第1号土壙実測図

ため完掘していないが、平面形態は円形を呈するものと思われる。東縁部は攪乱を受けており、全体の規模は明かでないが、長軸100cm、短軸80cm以上、検出面からの深さ77cmの規模をもつ。検出面の標高は約3.0mである。壙底は平坦で、壁面の立ち上がりは急である。埋積土は木炭を若干含む黒褐色細砂(10YR2/2)である。

遺物は壙底から出土したものではなく、土師器が7点あるにすぎない。このうちには丹塗りの土師器3点が含まれている。

### 第3号土壙

(Fig. 36, PL. 25 (2))

調査区の南端部に位置する。第3層を検出面とし、第4号土壙を切っている。西への延長部分は調査区外にあたるため完掘していないが、平面形態は他の土壙と異なり、隅丸方形を呈するものと思われる。長軸118cm、短軸115cm、検出面からの深さ63cmの規模をもつ。検出面の標高は約2.8mである。第2号土壙同様、壙底は平坦で、壁面の立ち上がりは極めて急である。埋積土は木炭を若干含む黒褐色細砂

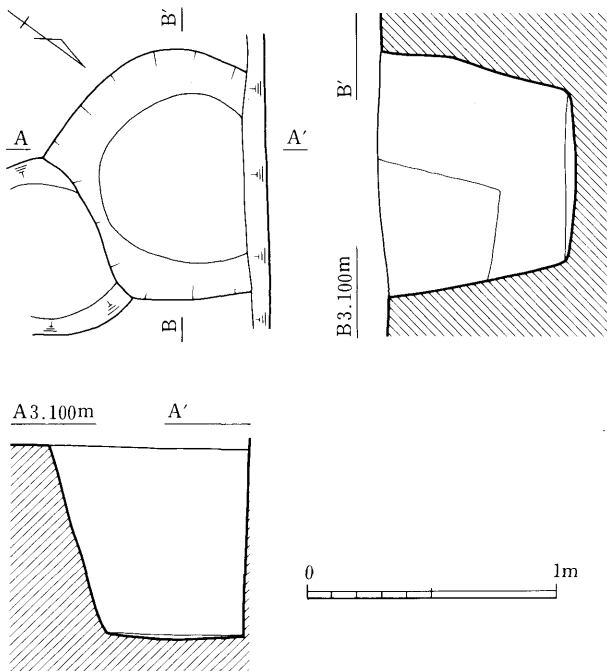


Fig. 35 第2号土壙実測図

土壇

(10YR2/2) である。

出土遺物は遺物が出土した他の土壇に比べて極めて少なく、土師器、須恵器各1点があるにすぎない。

第4号土壇

(Fig. 37, PL.26 (1))

調査区の南端部に位置し、第3層を検出面とする。第3号土壇に切られている。南への延長部分は調査区外に当たり、また、東側には既設の埋設管が存在するため、平面形態はわからない。長軸113cm以上、短軸90cm以上の規模をもつが、既設の埋設管の東側では上面が検出されないため、東側への広がりには少ないと考えられる。検出面の標高は約2.8mである。壇底はほぼ平坦であるが、東端部でわずかに東へ下降する。検出面からの深さは平坦部分で43cmである。埋積土は木炭を若干含む褐色細砂 (10YR4/6) である。

出土遺物には土師器甕など13点、須恵器1点がある。

第5号土壇

(Fig. 38, PL.26 (2))

調査区の南端部、第3・4

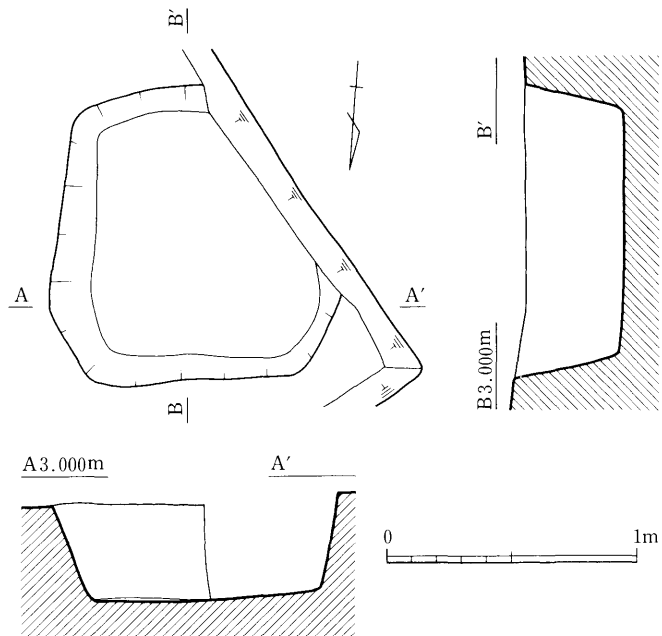


Fig. 36 第3号土壇実測図

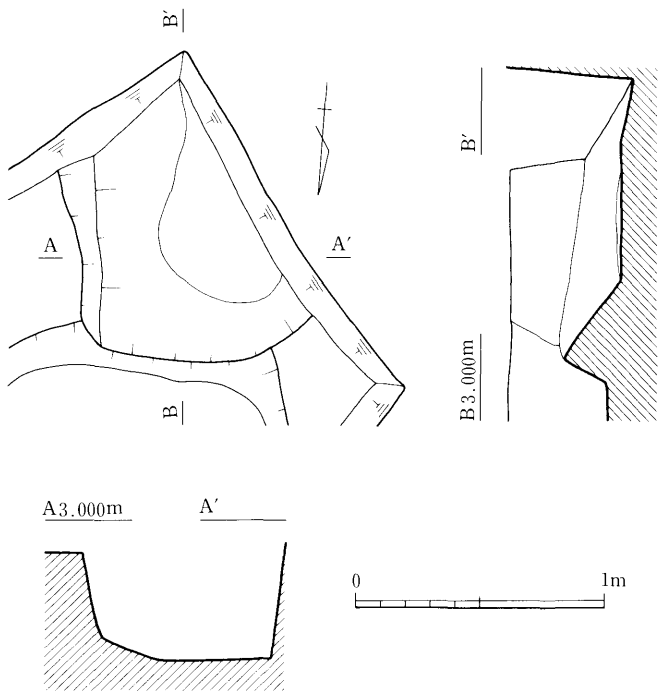


Fig. 37 第4号土壇実測図

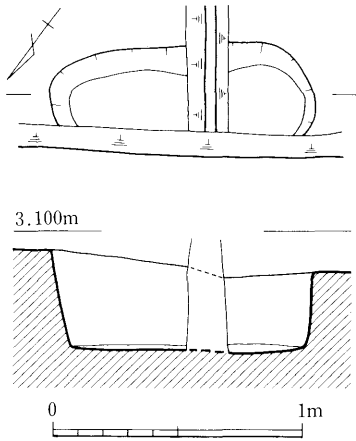


Fig. 38 第5号土坑実測図

号土坑のすぐ北に隣接し、第3層を検出面とする。土坑中央部の上位には既設の埋設管が貫通し、また、北への延長部分は調査区外にあたるため完掘していないが、平面形態は楕円形状を呈するものと考えられる。長軸106cm、短軸37cm以上、検出面からの深さ40cmの規模をもつ。調査区北壁付近で上面が弧状にカーブしていることから、規模はあまり大きくならないと思われる。検出面の標高は約3.0m。坑底は平坦で、壁面の立ち上がりは急である。埋積土は木炭を若干含む黒褐色細砂（10YR2/2）である。出土遺物はない。

#### 4 出土遺物 (Fig. 39, PL.27・28)

##### 第1号土坑出土遺物 (22～27)

22～24は土師器。22・23は甕。22はしまりのあまりない頸部をもち、口縁部は直立ぎみに外傾しながら直線的に立ち上がる。23は丸底の底部。成形が粗雑で器面の凹凸が激しい。内外面とも粗な刷毛工具で縦刷毛目仕上げする。24は受け部、裾部が大きく開く中空の器台と思われる。内外面丹塗りで、粗な刷毛工具で内面横、外面縦刷毛目仕上げする。25・26は須恵器。25は坏身。短い立ち上がりは強く内傾し、受部は外上方に開く。天井部の約2/3をヘラケズリする。ロクロ回転は反時計回り。26は高坏の脚裾部で、端部近くで水平に開く。裾端部の断面は鳥嘴状を呈する。27は須恵器模倣土師器。大形の甕の胴部で、外面は格子タタキし、上端部にはカキ目が巡る。内面には同心円の当て具痕が残り、器面の凹凸が激しい。

##### 第4号土坑出土遺物 (28・29)

土師器の甕。28は張りの少ない胴部に、「く」の字に外反する口縁部をもち、胴部内面には粘土帯接合痕が明瞭に残る。29はわずかに内湾ぎみに外反する口縁部で、口縁端部には面をもち、内面は横ナデされず、横・斜め刷毛目のまま仕上げる。

##### 第2層出土遺物 (30～36)

土師器63点、須恵器3点が出土した。30～34は土師器の甕。30は口縁部が内湾しながら開き、端部付近で直立ぎみに立ち上がる。口縁端部には狭い面をもち、胴部内面はヘラケズリ、外面は刷毛目仕上げされる。31・33は外湾ぎみに屈曲する口縁部で、33は頸部内面に稜をもたない。32は端部を丸く仕上げる口縁部で、器壁が厚い。34は頸部内面に明瞭な

小結

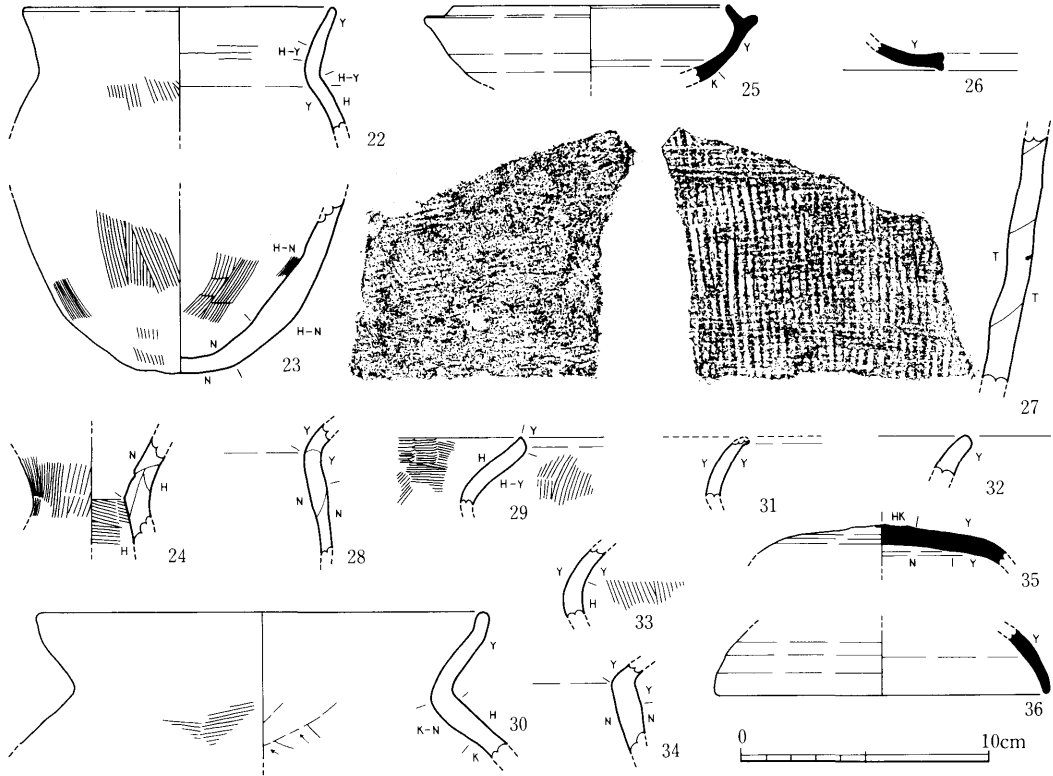


Fig. 39 出土遺物実測図

稜をもつ。35・36は須恵器の坏蓋。35は天井部の狭い範囲をヘラケズリし、緩やかに体部に移行する。36は口縁部がゆるやかに開き、端部は尖りぎみに終わる。35・36ともロクロ回転は時計回り。

5 小結

今回の調査の最大の成果は、5基の土壌を検出したことである。

検出面は上下二層あり、第2層：褐色砂質土を検出面とする第1号土壌は6世紀末～7世紀初頭に位置づけられる。第3層：明黄褐色細砂を検出面とする第2～5号土壌は良好な出土遺物がなく、時期決定の決め手を欠く。しかし、第2層からは、口縁部が内弯しながら開き、端部にわずかな面をもつ布留型の甕や体部と口縁部が不明瞭な須恵器の坏蓋など、5世紀前半～7世紀初頭の時期幅のある遺物が混在して出土し、その下限を7世紀初頭に求めることができる。このうち、第3・4号土壌からは須恵器が出土しており、光構内では今回の調査を含めて、これまで5世紀に遡る須恵器は出土していないことから、現段階では6世紀代に位置づけておくことにする。なお、第3号土壌は第4号土壌を切って

おり時期差が存在することから、調査区内では6世紀末～7世紀初頭、および6世紀代二時期の少なくとも三時期の土壌が営まれていたことになる。

土壌の検出面は砂質土および砂層で、台地や丘陵上に掘削される一般的な土壌の立地とは異なることも注目される。そのため、掘削は比較的容易と考えられるが逆に壁面の崩落が著しく、維持・管理が極めて困難である。掘削のサイクルが短いとされる貯蔵用土壌と比較しても、機能した期間はより短期間のものであったに違いない。また、第1号土壌と第2～5号土壌では、規模、断面形が異なることも注目しておきたい。第1号土壌は他の土壌よりも規模が大きく、断面形が浅い皿状を呈するが、第2～5号土壌は断面形が台形状を呈する。規模、断面形の差異が土壌の性格の差を示すものかどうかかわからないが、遺物の出土状況から各土壌が廃絶後に土器捨て場として利用されことは明かである。しかし、今回の調査では土壌の掘削当初の性格を示す資料は得られず、遺構の分布状況の把握とともに今後の課題となった。

また、従来、光構内での遺構の検出例は、海岸部との境界付近での近世後半～近代前半の石垣状遺構があるだけで、他に全く遺構の存在が知られていなかった。しかし、今回の集落関連遺構の検出は、峨嵋山の北麓縁辺部に立地する南半部を中心に、6～7世紀代の集落が存在することを示唆していると言える。御手洗湾の対岸では、東之庄遺跡<sup>5)</sup>、市延遺跡<sup>6)</sup>などの古墳時代の遺物散布地が数カ所知られている程度で、現在まで集落関連遺構は検出されていない。しかし、この時期にげんべい山古墳<sup>7)</sup>、岩屋古墳群<sup>8)</sup>などの多くの古墳が築造されるようになり、集落の形成が大きく進んだことを裏づけている。光構内の集落の性格は、光構内が陸繋島である峨嵋山縁辺の極めて狭隘な可耕地しか確保できない立地条件にあることや試掘調査時に出土した土錘などから、半農半漁の集団が想定される。第1・2号土壌でみられるように、出土遺物中に占める丹塗りの土器の多さは、不安定な生産基盤・生業形態を背景とする様々な祭祠の反映かもしれない。

さらに、試掘調査時に時期的に一括性が高い遺物包含層と考えられた第2層は、やや時期差のある遺物を包含していることが明かとなった。昭和40年、光構内の東部に位置する中学校体育館敷地で検出された、縄文時代晩期～室町時代の各時代の遺物を包含する黒褐色砂礫層とは色調・遺物組成が異なり、数層におよぶ遺物包含層が光構内に広く分布していることが確認された。

以上述べたように、光構内には海浜部とその背後にある丘陵縁辺部に立地する6～7世紀代の集落が存在することが予想されるに至った。また、遺物包含層からは縄文時代晩期

## 小結

～弥生時代の遺物も出土していることから、古墳時代以前の集落の存在した可能性もある。光構内での埋蔵文化財の発見の歴史は比較的古いのが、発掘調査は緒についたばかりで、集落の性格・分布範囲・展開期間など、今後の解明すべき課題は多い。

[注]

- 1) 福本幸夫「御手洗遺跡」(『先原始時代の光市』、光地方史研究会、1966年)。
- 2) 潮見浩「山口県岩田遺跡出土縄文時代遺物の研究」(『広島大学文学部紀要』第18号、1960年)。
- 3) 福本幸夫「横樋遺跡」(『先原始時代の光市』、光地方史研究会、1966年)。
- 4) 防府市教育委員会「周防国府跡昭和55年度発掘調査概報」(『防府市文化財年報IV』、1982年)。
- 5) a 山口大学島田川遺跡学術調査団『島田川』(山口大学、1953年)。  
b 福本幸夫「東之庄神田遺跡」(『先原始時代の光市』、光地方史研究会、1966年)。  
標高約20m前後のゆるやかな丘陵上に立地する。調査は行われていないが、遺物包含層から弥生土器、土師器、須恵器、磨製石斧などが出土している。
- 6) a 山口大学島田川遺跡学術調査団(『島田川』、山口大学、1953年)。  
b 福本幸夫「市延遺跡」(『先原始時代の光市』、光地方史研究会、1966年)。  
千坊山南麓の標高約10～40mのゆるやかな丘陵上に立地し、土師器、須恵器、棒状土錘が出土した。土師器には丹塗りのものが多い。
- 7) 弘津史文『周防国熊毛郡上代遺蹟遺物発見地調査報告書』(山口高等学校歴史教室、1927年)。  
墳形はわからないが、横穴式石室を内部主体とし、環頭太刀、鏡、銅塊、土師器などが出土した。
- 8) 光市史編纂委員会編『光市史』(光市役所、1975年)。

光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査

Tab. 3 出土遺物観察表

法量( )は復原値

| 番号 | 器種         | 法量(cm)<br>(①口径②底径③器高) | 色調<br>(①外面 ②内面)                      | 胎土   | 焼成   | 備考                  |
|----|------------|-----------------------|--------------------------------------|------|------|---------------------|
| 1  | 土師器 坏      | ②(5.8)                | にぶい橙色(5YR6/4)                        | 良 好  | 良 好  | 胎土に金雲母含む            |
| 2  | 土師器 塊      | ②(7.0)                | 浅黄橙色(7.5YR8/4)                       | 良 好  | 良 好  |                     |
| 3  | 須恵器 坏      | ②(8.2)                | 暗青灰色(10BG4/1)                        | 良 好  | 良 好  | ベタ高台                |
| 4  | 瓦質土器 甕     |                       | ①青灰色(10BG5/1)<br>②灰白色(5Y8/2)         | 良 好  | 良 好  |                     |
| 5  | 土師器 甕      |                       | にぶい橙色(7.5YR6/4)                      | 良 好  | 良 好  | 外面煤付着<br>胎土に金雲母含む   |
| 6  | 縄文土器 甕or鉢  |                       | ①にぶい赤褐色(5YR4/3)<br>②黒褐色(7.5YR3/1)    | 良 好  | やや不良 |                     |
| 7  | 縄文土器 甕or鉢  |                       | ①にぶい赤褐色(5YR4/3)<br>②黒褐色(7.5YR3/1)    | 良 好  | やや不良 |                     |
| 8  | 土師器 高坏     | ①(19.6)               | にぶい橙色(2.5YR6/3)                      | 良 好  | やや不良 | 丹塗り                 |
| 9  | 土師器 高坏     | ②(14.0)               | にぶい橙色(2.5YR6/3)                      | 良 好  | やや不良 | 丹塗り                 |
| 10 | 土師器 皿      | ②(5.0)                | にぶい橙色(5YR6/4)                        | 良 好  | やや不良 | 糸切り                 |
| 13 | 土師器 甕      |                       | ①にぶい褐色(7.5YR5/3)<br>②にぶい褐色(7.5YR6/4) | 良 好  | 良 好  |                     |
| 14 | 土師器 甕      |                       | 橙色(2.5YR6/6)                         | 良 好  | 不 良  |                     |
| 15 | 土師器 台付皿    |                       | にぶい褐色(7.5YR7/4)                      | 良 好  | 良 好  | 底部中央に穿孔<br>胎土に金雲母含む |
| 16 | 土師器 台付皿    | ②(9.4)                | にぶい黄褐色(10YR7/3)                      | 良 好  | 良 好  |                     |
| 17 | 土師器 台付皿    |                       | にぶい褐色(7.5YR7/4)                      | 良 好  | 良 好  |                     |
| 18 | 土師器 台付皿    | ②(5.8)                | にぶい褐色(7.5YR7/4)                      | 良 好  | やや不良 | 胎土に金雲母含む            |
| 19 | 土師器 皿      | ②(6.2)                | ①褐色(5YR7/6)<br>②褐色(7.5YR7/6)         | 良 好  | やや不良 |                     |
| 20 | 須恵器 坏蓋     | ①(12.8)               | 暗青灰色(5PB4/1)                         | 良 好  | 良 好  |                     |
| 21 | 土師器 甕      | ①(12.4)               | 褐色(5YR6/8)                           | 良 好  | 良 好  |                     |
| 22 | 土師器 羽釜     |                       | 明赤褐色(5YR5/6)                         | 良 好  | やや不良 |                     |
| 23 | 土師器 甕      |                       | 褐色(7.5YR6/6)                         | やや不良 | 良 好  |                     |
| 24 | 土師器 器台     |                       | 赤褐色(2.5YR4/6)                        | 良 好  | 良 好  | 丹塗り<br>胎土に金雲母含む     |
| 25 | 須恵器 坏身     | ①(11.0)               | 灰色(7.5Y4/1)                          | 良 好  | 堅 緻  |                     |
| 26 | 須恵器 高坏     |                       | 灰色(10Y6/1)                           | やや不良 | 堅 緻  |                     |
| 27 | 須恵器模倣土師器 甕 |                       | 褐色(5YR7/6)                           | やや不良 | 良 好  |                     |
| 28 | 土師器 甕      |                       | ①褐色(5YR6/6)<br>②褐色(7.5YR6/6)         | やや不良 | 良 好  |                     |
| 29 | 土師器 甕      |                       | 浅黄褐色(10YR8/4)                        | やや不良 | 良 好  |                     |
| 30 | 土師器 甕      | ①(17.9)               | にぶい褐色(5YR6/4)                        | やや不良 | 良 好  |                     |
| 31 | 土師器 甕      |                       | 褐色(5YR6/6)                           | 良 好  | 良 好  |                     |
| 32 | 土師器 甕or壺   |                       | 灰褐色(5YR4/2)                          | 良 好  | 良 好  |                     |
| 33 | 土師器 甕      |                       | 褐色(5YR6/6)                           | 良 好  | 良 好  |                     |
| 34 | 土師器 甕      |                       | にぶい赤褐色(2.5YR5/4)                     | やや不良 | 良 好  |                     |
| 35 | 須恵器 坏蓋     |                       | 灰白色(7.5Y7/1)                         | 良 好  | 堅 緻  |                     |
| 36 | 須恵器 坏蓋     | ①(13.4)               | 赤褐色(10YR5/4)                         | 良 好  | 良 好  |                     |

法量( )は現存値

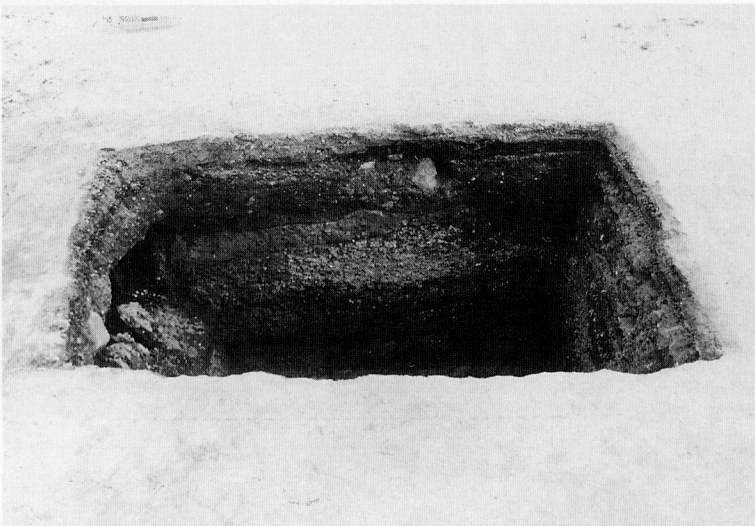
| 番号 | 器種   | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 石質     | 備考                  |
|----|------|---------|---------|---------|-------|--------|---------------------|
| 11 | 棒状土錘 | (47.5)  | 18.0    | 12.5    | 11.86 | -      | 穿孔径6.5mm<br>胎土・焼成良好 |
| 12 | 剥片   | 19.0    | 13.5    | 0.55    | 1.26  | 姫島産黒曜石 |                     |



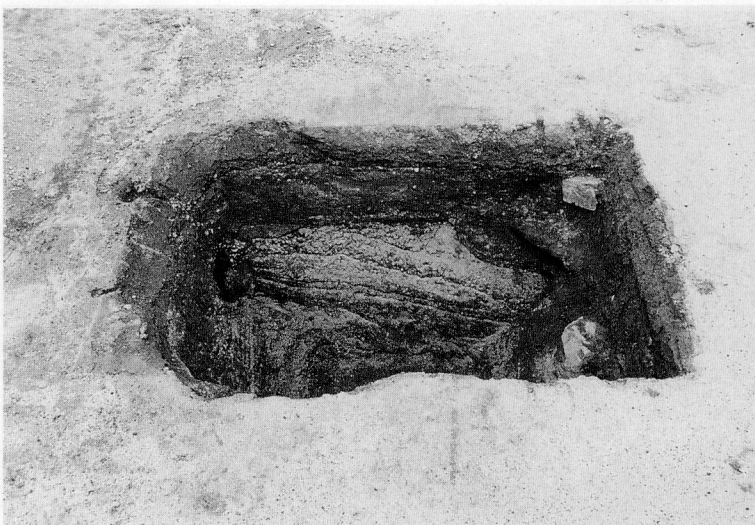
光構内（教育学部附属光小学校・同光中学校）全景（北東から）



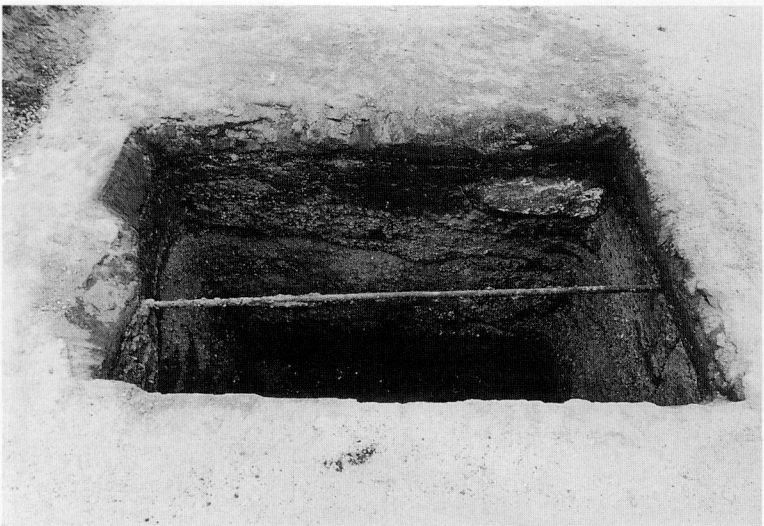
光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査 (1) (試掘調査)



(1) Aトレンチ全景(北から)



(2) Bトレンチ全景(東から)

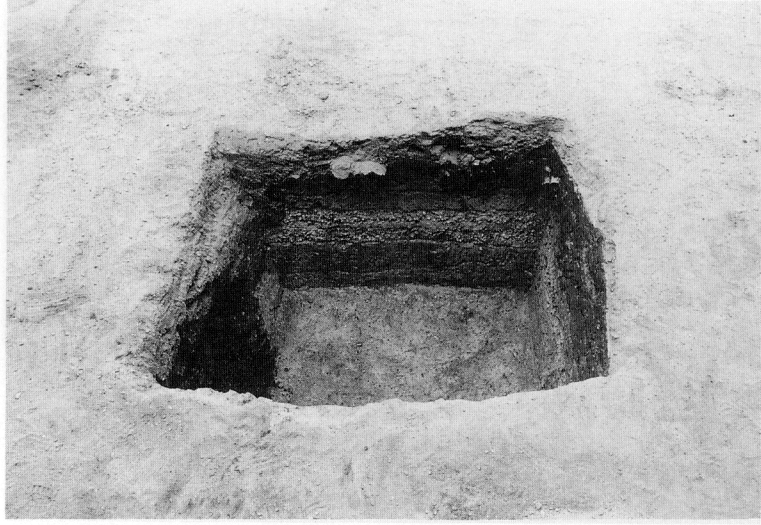


(3) Cトレンチ全景(東から)

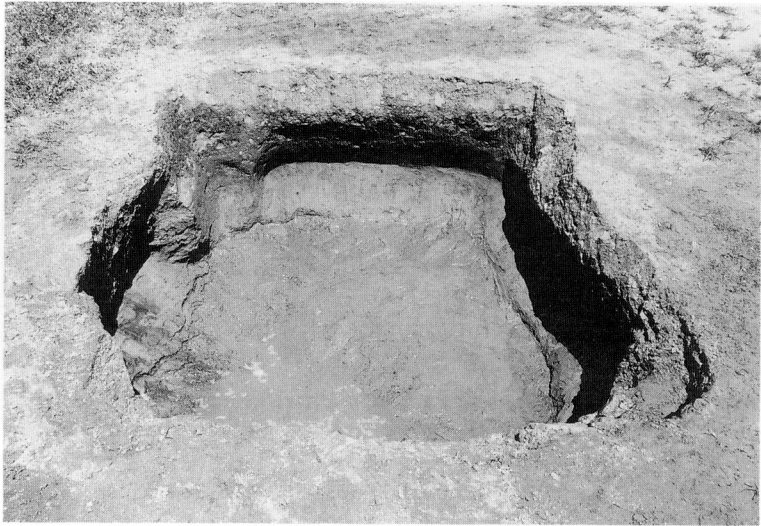


(4) Dトレンチ全景(東から)

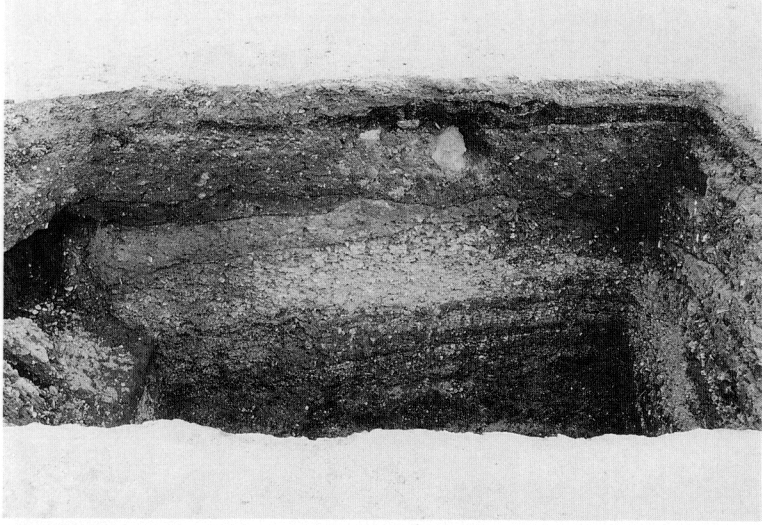
光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査 (2) (試掘調査)



(1) Eトレンチ全景(南から)



(2) Fトレンチ全景(南から)

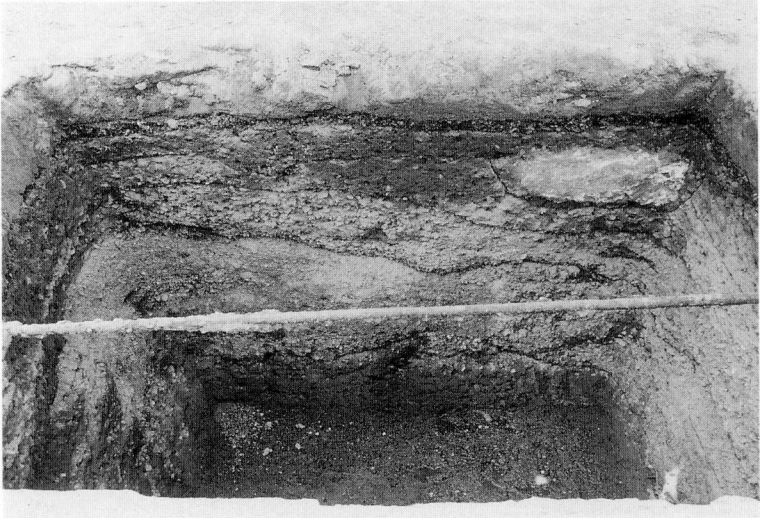


(3) Aトレンチ南壁土層断面(北から)



(4) Bトレンチ西壁土層断面(東から)

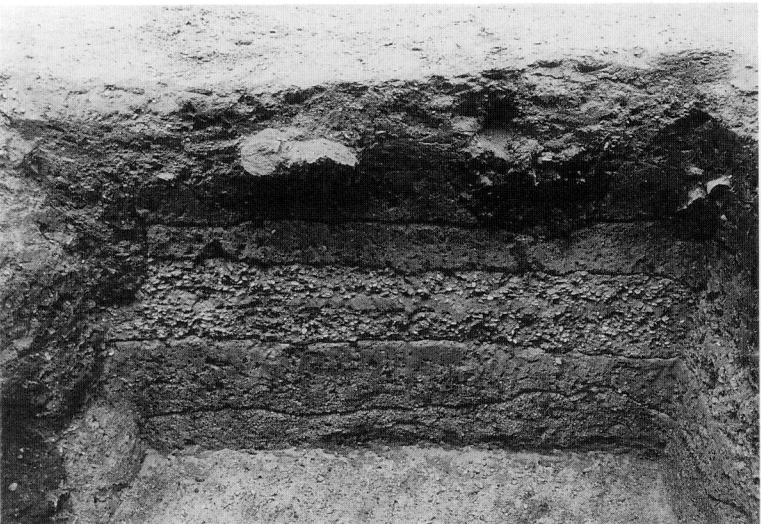
光槽内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査 (3) (試掘調査)



(1) Cトレンチ西壁土層断面(東から)



(2) Dトレンチ西壁土層断面(東から)



(3) Eトレンチ北壁土層断面(南から)

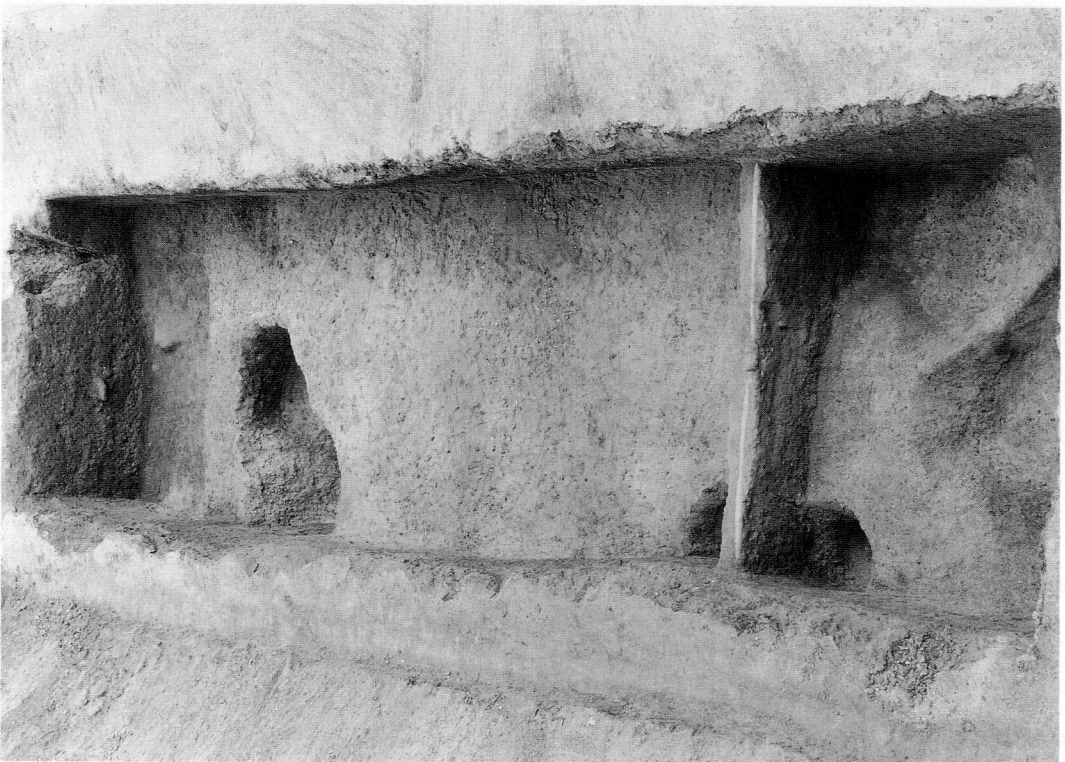


(4) Fトレンチ北壁土層断面(南から)



(4)

(1) 第2層検出遺構（南西から）



(2) 第3層検出遺構（南西から）

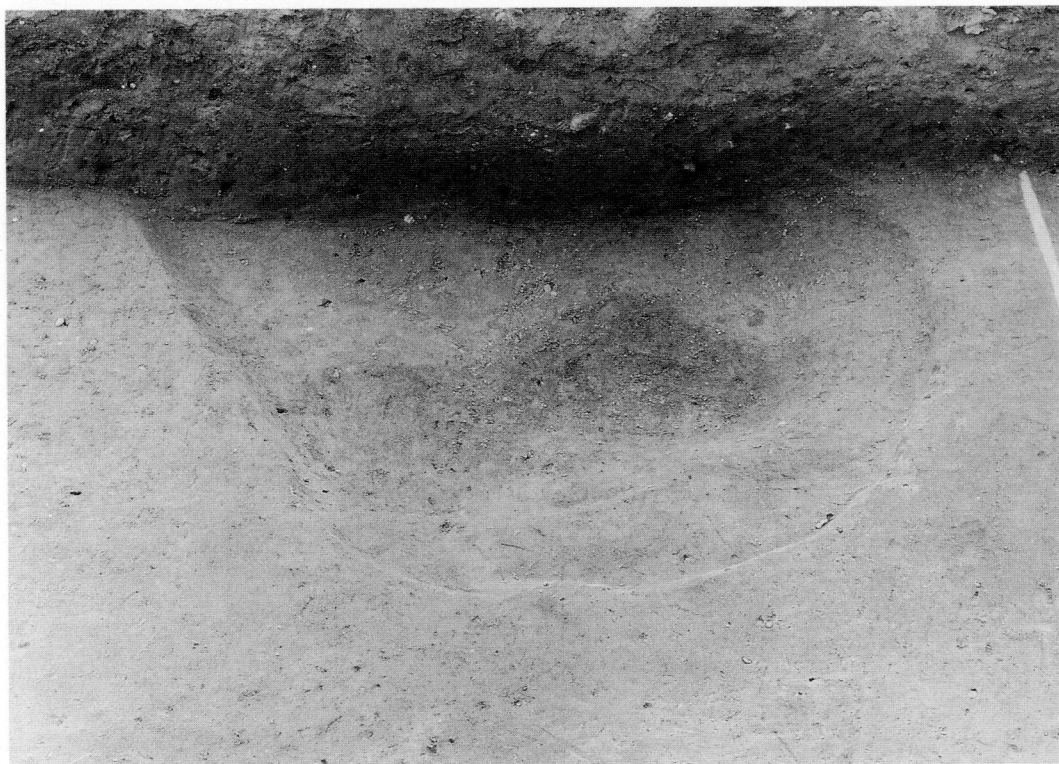
光構内教育学部附属光小学校連動場改修に伴う発掘調査

(5)



(1) 第1号土壌遺物出土状況（北西から）

（北西側）発掘土壌遺物（1）



(2) 第1号土壌（北西から）

（北西側）発掘土壌遺物（2）



(1) 第2号土壙 (南東から)

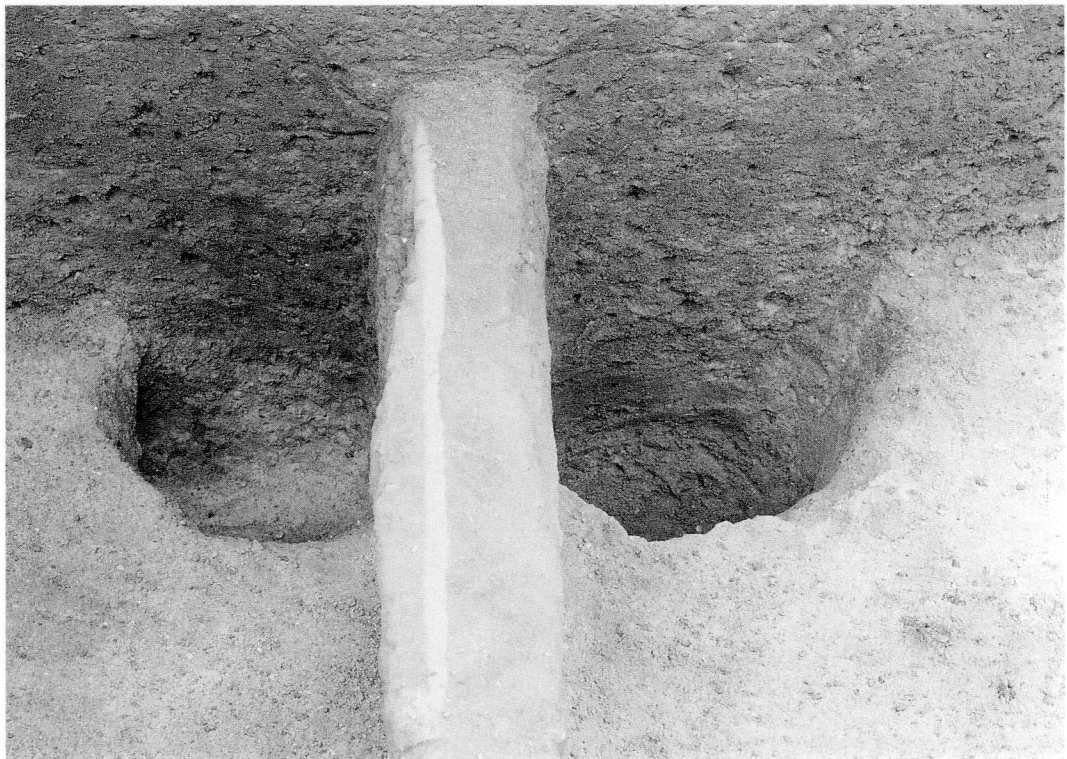


(2) 第3号土壙 (東から)

光構内教育学部附属光小学校連動場改修に伴う発掘調査  
(7)

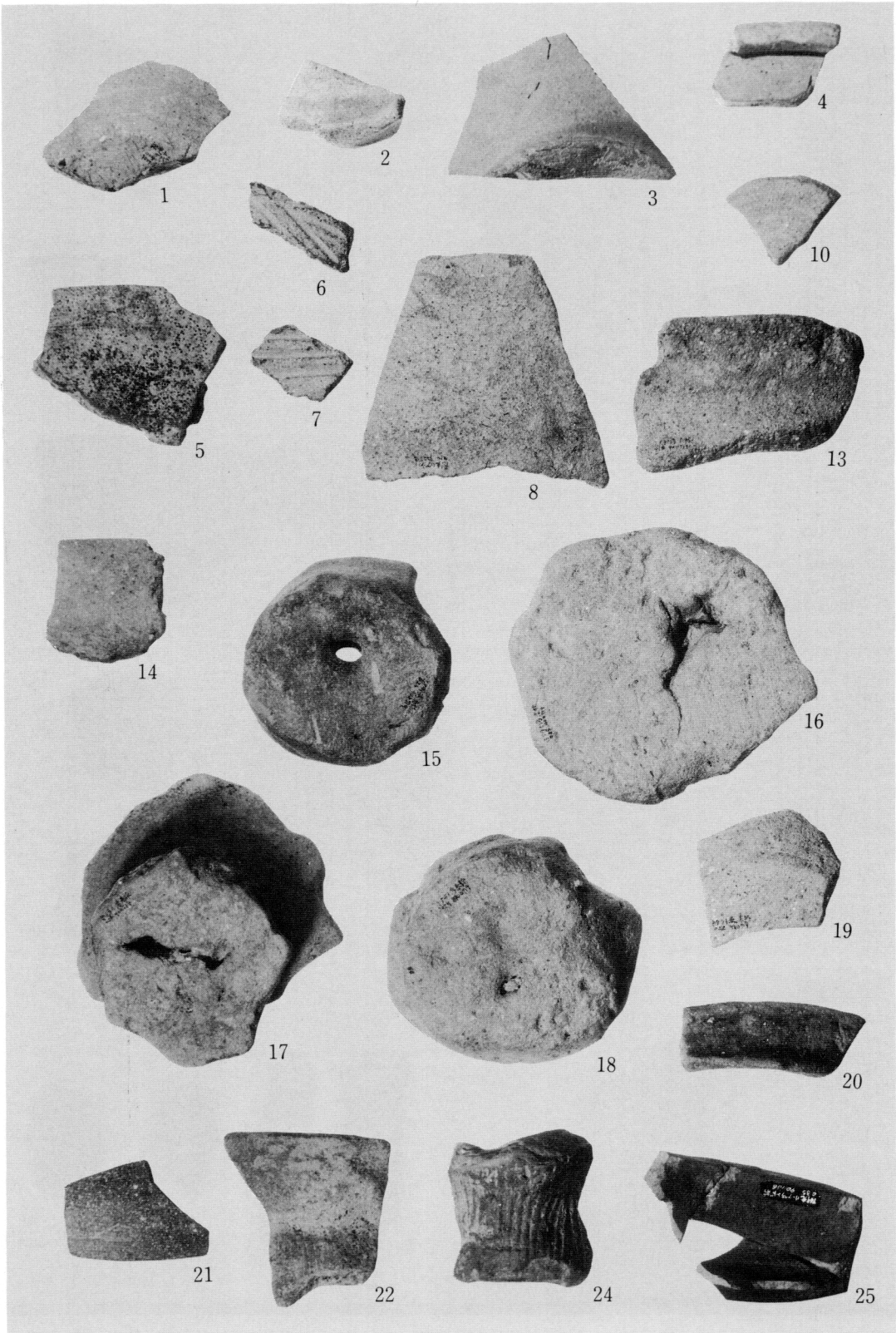


(1) 第4号土壙 (北西から)



(2) 第5号土壙 (南東から)

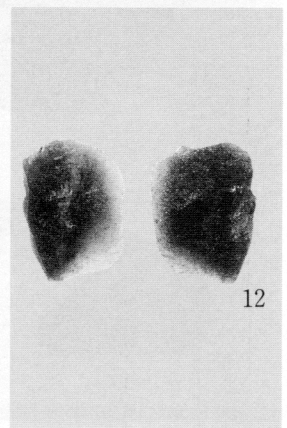
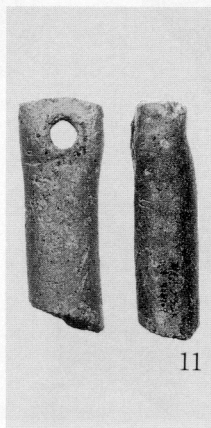
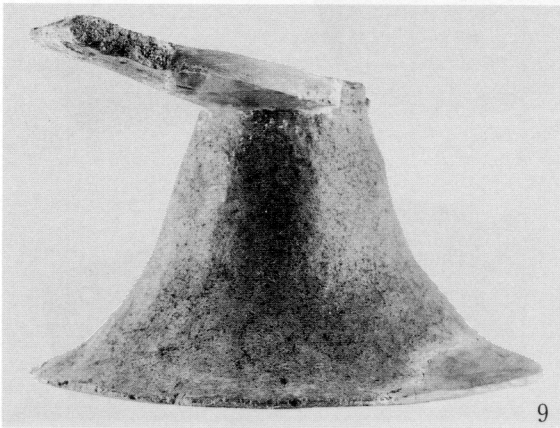
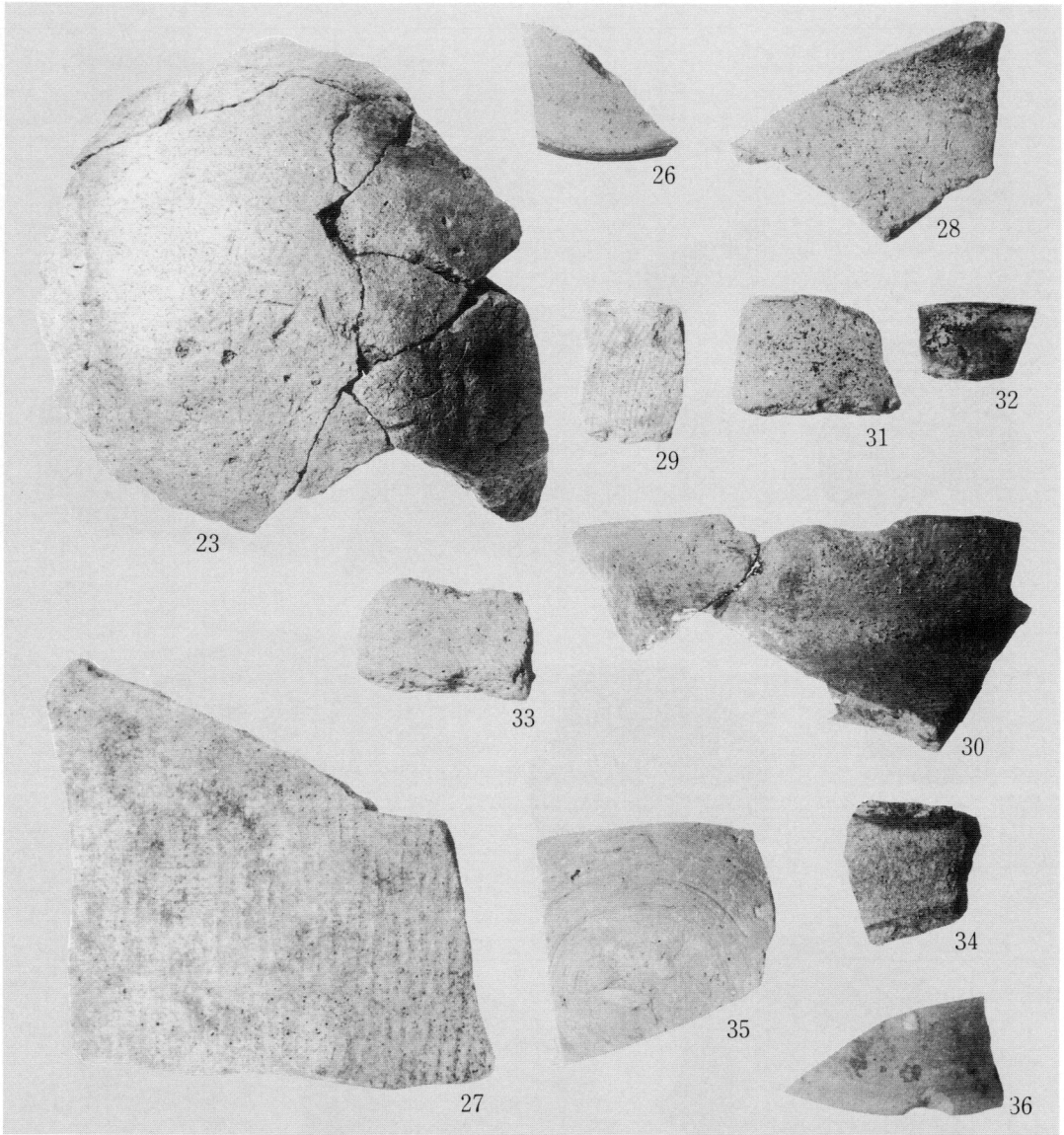




出土遺物 (1)

約1:2

光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査 (9)



出土遺物 (2)

11…約2 : 3, 12…約1 : 1, その他…約1 : 2